

# 県外派遣報告書

審判員名	若林 哲	所属	U15	
大会名	第77回全日本大学バスケットボール選手権大会			
期間	令和7年12月1日(月)～12月8日(月)			
会場	国立代々木競技場第二体育館、大田区総合体育館			
スケジュール				
期 日	内 容	場 所		
12月1日(月)	男子予選リーグ	国立代々木競技場第二体育館		
12月8日(月)	女子予選リーグ	大田区総合体育館		
実技				
担当試合	期 日	12月1日(月)	男子 女子	男子予選リーグ2戦目
	対戦カード	国士舘大学 VS 愛媛大学	CC	U1 U2
	相手審判	CC:梶崇司氏(栃木県) U2:竹澤駿太郎氏(東京都)		
ミーティング内容		主任		
<p>【ゲーム前】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ベーシックなメカニクスの確認 <ul style="list-style-type: none"> <li>・エッジは基本的にリードが確認する(イレギュラーはあまり発生しない)</li> <li>・とにかくプライマリーを尊重する(微妙なケースは特に)。</li> <li>「誰がどう見ても」「明らか」という場合のみケイデンスで対応する。</li> </ul> </li> <li>○当たり前のことを当たり前に確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・点数が正しく加算されているか、タイマーが正しく動いていて正しいタイミングで止まっているか。</li> </ul> </li> <li>○ゲームフローを考えた上でのプレーコーリング <ul style="list-style-type: none"> <li>・点差や出場しているメンバーなどを考慮して、必要なコールを吟味する。</li> </ul> </li> </ul> <p>【ゲーム後の振り返り】</p> <p>勝っているチーム・負けているチーム双方に納得感のあるコールを積み重ねることができていた。クルーワークとしてもプライマリーを尊重し、ゲームを進めることができた。T-Cなど二人の間で起こったケースで、どちらがコールした方がベターだったかは振り返る必要がある。</p>				
担当試合	期 日	12月8日(月)	男子 女子	女子予選リーグ2戦目
	対戦カード	新潟医療福祉大学 VS 東北学院大学	CC	U1 U2
	相手審判	U1:大津麻菜美(群馬県) U2:木下川楓真氏(東京都)		
ミーティング内容		主任		
<p>【ゲーム前】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○予想される試合展開 <ul style="list-style-type: none"> <li>体格差も少なく、他ブロックの結果から予想すると拮抗した試合展開になることが想定される。</li> </ul> </li> <li>○ベーシックなメカニクスの確認 <ul style="list-style-type: none"> <li>クルーで明らかなものをコールしていく。オールコートの際のセンターのポジションアジャストについての確認</li> </ul> </li> <li>○公平感・平等感を持ってコール、対応していく <ul style="list-style-type: none"> <li>ゲームの序盤はリアクションが想定されるが、両チームに対して同じような判定を積み重ねていけば自然とリアクションは収まり、スムーズにゲームは進んでいく。</li> </ul> </li> </ul> <p>【ゲーム後の振り返り】</p> <p>トラベリングに関しては、ゲーム序盤で両チームに対して示すことができた。ファウルコールに対してはもっとシンプルにコールした方が良いケースがいくつかあった。ケガにつながるケースではなかったが、ゲーム終盤に大きな現象としていくつかファウルコールがあった。ゲームフローとして、ゲーム序盤・中盤でファウルコールを入れていけば、大きな現象にはつながらなかったのではないかと反省が残った。ゲームは1点差の接戦で、両チームともにタフに頑張ってくれた。</p>				
全体の感想				
<p>まず初めに開催元である全日本大学バスケットボール連盟の皆様、そして今大会へ派遣して下さった埼玉県バスケットボール協会に感謝申し上げます。今回は2試合を担当させていただきました。</p> <p>2試合とも内容が全く異なるゲームでした。その中で感じたのは、「自分がこのゲームをこうしたい、こう進めたい」という思いはもちろん大切ですが、「チーム・観客はどのようなコール(ノーコール)、対応を求めているか」というものさしも同じくらい重要だということです。レフェリーばかりが気にしすぎていて、チーム・観客はそれほど気にしていない・求めている。逆にレフェリーはノーコールで判定しているけれども、チーム・観客としてはコールして欲しいと思っているケースが存在するということを強く感じました。特に2試合目の女子ゲームは接戦ではありましたが、ゲームレベルやゲームの流れを感じ取りながら対応すべき場面が多かったように感じます。端的に言えばレフェリーとして「決めに行く」場面がもっとあって良かったと思います。今後、改善できるように研鑽を続けていきます。</p> <p>以上で派遣報告とさせていただきます。ありがとうございました。</p>				